

福島第一原子力発電所の状況(主なトピックス)

2014年5月22日
日本原子力産業協会

1. 沖合いでのモニタリング

港湾内の海水中放射性物質濃度は至近1ヶ月で有意な変動はなく、沖合いでの測定結果については、引き続き有意な変動は見られていない。

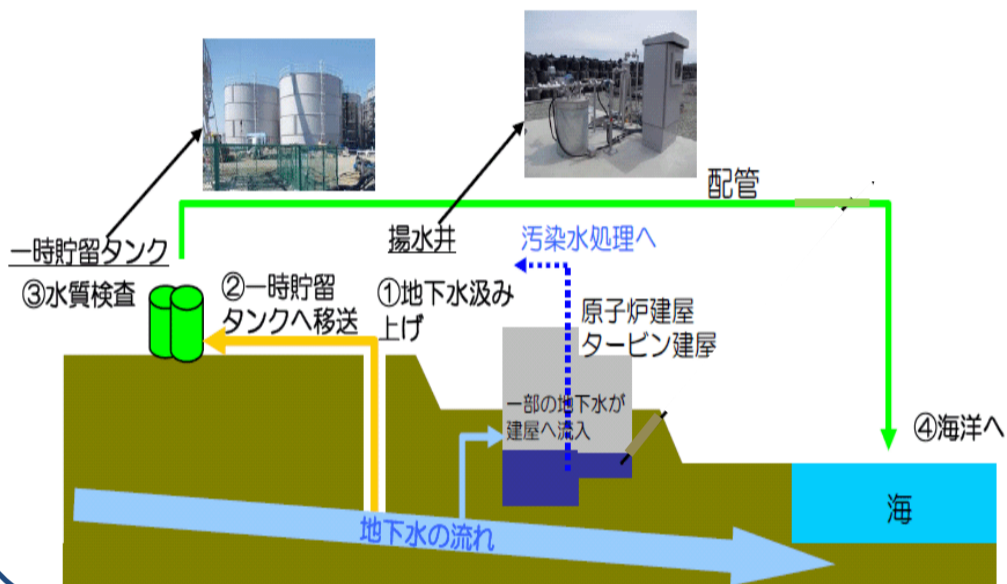
2. 汚染水対策

<地下水バイパス>

原子炉建屋より山側に設置した井戸からくみ上げた地下水の放射能濃度分析を東京電力および第3者機関にて実施。地下水の放射能濃度が運用目標を下回っていることを確認した上で、5月21日に最初の海洋放出(561トン)を実施。
※地下水バイパスの取り組みについては、こちらよりご覧ください。

<http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/info/bypass-j.html>

- 地下水は発電所敷地内を山側から海側に流れており、毎日約400トンが建屋に流入している。
- 建屋よりも山側に掘った井戸で地下水をくみ上げ、その放射能濃度を確認した上で海洋へ放出し、建屋への流入量を最大で1日あたり100トン程度減らす計画。



<地下水バイパス放出状況>



<建屋の止水>

高温焼却炉設備建屋への地下水流入が考えられているトレンチの接続部などの止水を2014年4月に完了。地下水流入量は、季節や降雨量により変動はあるものの、2013年3月(止水対策前)と2014年3・4月(止水対策中・後)を比較すると、流入量は1日あたり約80m³減少している。

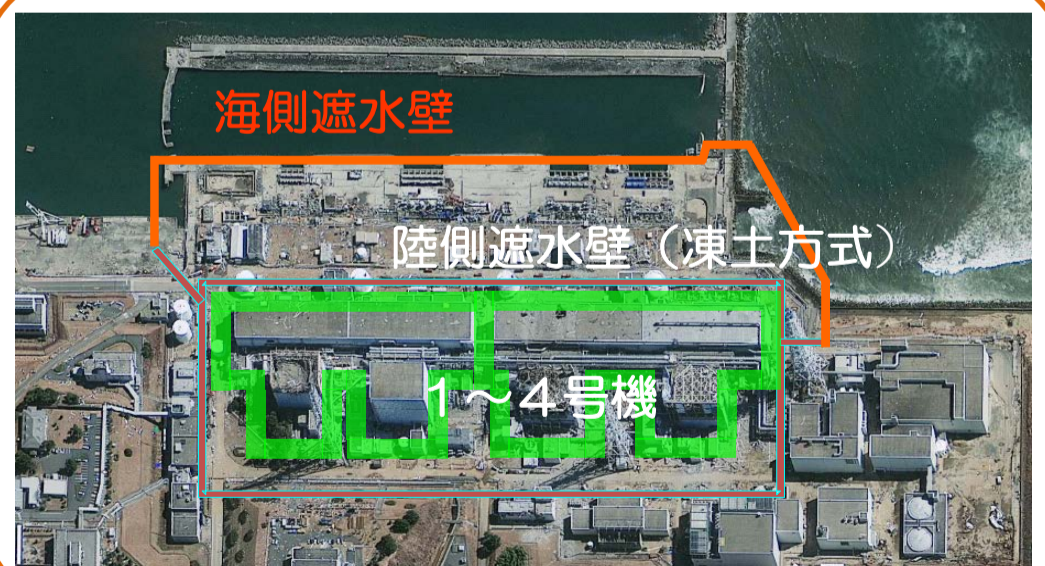
<遮水壁>

【海側】

- 万が一、建屋外に漏れいした場合も海洋への流出を防止するために、建屋の海側に鋼管矢板による遮水壁の設置を進めている。
- 2014年9月に工事完了予定。

【陸側(凍土方式)】

- プラント全体を取り囲む陸側遮水壁を凍土方式で設置予定。
- 2015年上期の運用開始を目指す。
- 現場における試験を開始。(2014年度中に凍結開始予定)
- 現在、規制委員会にて設置に関して審査中。

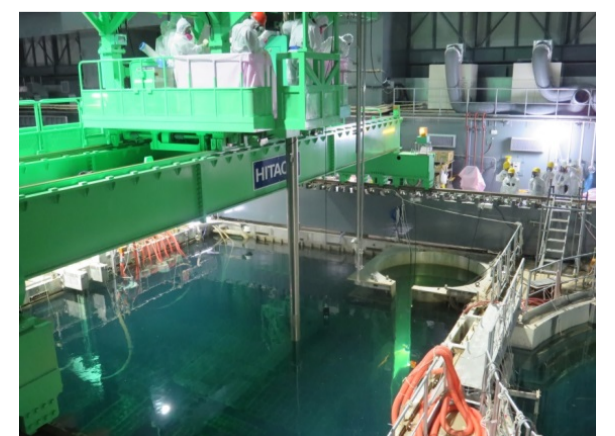


3. 4号機使用済燃料プールからの燃料搬出

2013年11月18日より、4号機原子炉建屋にある使用済燃料プールより燃料1,533体の取り出しを開始。約1年をかけて設備の健全性が確認された共用プールに移動する予定。

【移送実績(2014年5月19日時点(約57%))】

880/1533体(使用済燃料:858/1331体、新燃料:22/202体)



[出典]東京電力:<http://www.tepco.co.jp/>